

★この資料は、次回以降の実行委員会にもご持参ください★

第48回 雑居まつりの参加について

1. はじめに

雑居まつりは、47年続いてきました。

当然、試行錯誤しながらですから、課題もたくさんあります。そんな現状そのものが、まさに「雑居」です。それでも、“それぞれの団体が実行委員会の主体である”ことを基本にして、みんなで話し合い、合意しながらすすめてきました。

昨年も新型コロナウィルスへの感染の懸念が依然続いていたため、第44回（2019年）までとは違う雑居まつりの開催方法を実行委員会において模索しました。一昨年と同様に、各自の考え方の違いを理解し合うこと、対話や論議の進め方、合意形成やそれを共有することの難しさを痛感する場面がありました。

そして、話し合いの結果、ゴミは出さない、飲食はしない、エリア制、一昨年より開催時間は長く、3年ぶりのサンバパレードの実施という試みを行いました。また、事務局体制の厳しさが続いているため、事務局が担っていたものを軽減させました。

今年も、雑居まつりを続けていくにはどうしたらいいのか、雑居まつりで何をやりたいのか、できるのか、を話し合いたいと思います。

話し合うにあたっては、47年雑居まつりが積み上げてきたこと、そして、昨年の取り組みを確認することから始めたいと思います。

また、第48回の議題の一つとなるクリーン方法と出店内容については、討議する上での要点をまとめました。

2. 雑居まつりが積み上げてきたもの

①第1回雑居まつりから引き継がれている言葉***

○「世田谷のボランティアと福祉を発展させるために私たちは今・・・」

②雑居まつりとは***（「チラシ」より抜粋）

○「地域の問題は地域住民の手で！」を合言葉に、世田谷を中心に様々な分野で活動している団体やグループが集まって、実行委員会を組織し、企画・運営しています。

○来場者の皆さんとの「出会い・ふれあい・語り合い」を大切にしています。

○自然環境を大切にしています。ゴミの減量に取り組んでいます。

極力使い捨て食器を使わないための食器やマイバックの持参、ゴミの分別ご協力ください。

③雑居まつりを開催する上で様々な課題に対して大切にしてきたこと***

○みんなで協力し解決することを目指す。

○役割は分担しても、責任は一緒に分かち合う。

○一人ひとりが自分ごととして捉え、行動する。

○できることをできる人が。

○手間を惜しまず、創意工夫する。

⇒47年間の積み重ね、無事故の実績。

④団体が参加するにあたっては***（「参加台帳」より抜粋）

○締め切りまでに「参加台帳」を出す。

○「趣旨」を理解、賛同した上で参加する。

「企画書」「雑居まつり宣言」「雑居まつりに関わるすべての方へ」などの文章も確認する。

○「実行委員会」に必ず参加する。

○「通信費」を¥1,000 以上拠出する。

○出店場所に、団体名と活動内容の掲示をする。

○「協力金」を拠出する。

○参加するひとりひとりが力を合わせて創り上げています。あなたがやれなかったことは、必ず誰かが代わりにしてくれている、ということを忘れないください。

⑤団体の参加目的は何か***

○参加団体同士の交流 ○当日の来場者との交流 ○活動の情報発信 ○活動資金調達 ほか

⑥事務局は*** 誰でも入れます。

○全体に関わる事務：参加団体の把握・連絡、物品関係、会計、関係機関への申請（世田谷区、社会福祉協議会、ボランティア協会、公園管理事務所、保健所、消防署など）広報（区報、区掲示板、企画書、チラシ、ポスター、看板、HP など）配布物の作成&印刷（団体一覧、注意事項、クリーンパンフ、会場案内図など）各契約（携帯電話、仮設プレハブ小屋、電気配線、ステージ、音響、手話通訳、傷害保険）など

○実行委員会の開催：会場手配、発送作業、議事進行準備、議事録 など

○全体企画の総括責任：（例）メインステージ、サンバパレード、スタンプラリー

⑦参加団体の注意事項*** （「参加団体注意事項」より抜粋）

○必要機材/物品：団体が用意することを基本とします。

○公園内への車の乗り入れ：緊張感を持った安全確保が最優先。

○ゴミ処理：ゴミは出さないという立場で、工夫と手間をかけています。

○当日の運営：団体名と活動内容の掲示、時間厳守、販売場所の限定、署名・募金場所の限定、衛生管理のため、お客さんが食べ物を持ち帰らないように声かけをします。
火気取扱注意、盗難防止、禁煙、迷子対応

○全体作業：日時を決めた当日前後の準備と後片付けがあります。

3. 新型コロナ禍での経緯

①第45回（2020年）：一堂に会することを断念し、「記念誌」作成。

②第46回（2021年）：規模や内容を変更し、会場での「まつり」開催。

○時間：午後1時～3時（2時間）。

○会場：1ヶ所、多目的広場および隣接する林の中。（雨天時はパーゴラ）。出入り自由。

○配置：全参加団体が、間隔をあけてほぼ一円に配置。

○参加団体：各団体が参加判断。途中での参加取り止めあり。最終25団体。

○各団体の参加内容：「交流と活動の情報発信」のみ。（例）資料展示など

・「模擬店」や「バザー」は、やらない。

・活動の情報発信として必須となる物の販売は可。（例）活動冊子など

・各団体は、計画している内容を実行委員会で伝え、全体で確認しながら調整する。

○全体企画：資料展示コーナー、団体のアピールコーナー、「雑居まつり宣言」のキルト掲示、東日本大震災に思いを馳せて「ふるさと」を合唱、オープニングとフィナーレ

○クリーン：ゴミは出さないことの再確認。

○飲食：会場内飲食不可。（水分補給は除く）

○委託するもの：中止。（例）仮設プレハブ小屋、ステージ、音響、電気配線。

○準備と後片付け：当日だけで行えるように工夫する。

○物品：各団体の必要物品は、各団体で用意する。全体物品は最小限。

○感染リスクを減らすために：

・3密（密集場所、密接場面、密閉空間）の回避。マスク、石けんによる手洗い、手指消毒アルコールによる消毒、体調管理、検温の励行。を共通認識とする。

・具体策としては、本部に非接触型体温計、不織布マスク、ビニール手袋、ゴミ持ち帰り用レジ袋を用意。公園の水場に石けんボトル、会場内に手指消毒用ボトルを設置。会場内飲食禁止（水分補給可）。また周知看板を掲示する。

○駐車場：光明学園の駐車場が借用できなくなったため、搬入・搬出車両については各団体での管理とした。

③第47回（2022年）：規模や内容を変更し、会場での「まつり」開催。

以下、第46回との変更点

○時間：午後1時～4時（3時間）。

○配置：「広場」単位で3つのエリアに分かれる。

○参加団体：最終53団体。

○各団体の参加内容：模擬店（団体が出店場所で加熱調理した食べ物）は、やらない。

○全体企画：第46回に加えて、サンバパレード

○クリーン：第46回と同様。具体的には、

・クリーン係は置かない。

・「公園のゴミ箱封鎖、雑居のゴミ箱設置、ごみ分別の徹底と処理」「ゴミ拾い」は中止。

・「マイ食器持参」の呼びかけ、「雑居の水場設置」、「雑居式リユース食器」は中止。

・環境に優しくないプラスチック類は、極力使わない。

・「ごみ（個人&団体）持ち帰り、マイバック持参」の呼びかけは行う。

○駐車場：搬入・搬出の車両については、場所を限定し、公園内に留め置きした。

4. 第48回の開催に向けて

(1) クリーン方法について

●来場者の出すゴミはどうするか

・雑居まつり式（公園のゴミ箱封鎖、ゴミ箱設置、ゴミ分別の徹底と処理）は、クリーン係が安全策を講じて役割を担うことができない、と考えています。

・では、おまつりのゴミ処理をどうするのか。→各団体が自分たちのゴミを処理する。

(2) 出店内容について

※どこまで可とするのか（第47回は④までとした）

①食べ物以外の物を販売：バザー品

(衣料、食器、書籍、雑貨、手作り小物 など)

②食べ物を販売：仕入れてきた“出来合いの個包装された商品”(饅頭、もずく、飲料 など)

③食べ物を販売：仕入れてきた“農産物”

④食べ物を販売：団体が保健所の許可を得ている調理場において事前に調理した“商品”(クッキー、パン など)

⑤食べ物を販売：団体が公園の店舗内で調理するもの(「模擬店」)

(3) 会場内の飲食について

○飲食エリアを設けるのか。

エリアを設ける場合：どう運営するのか。(配置、物品、消毒方法、体制など)

(4) 食べ物の販売について

○可とした場合：包材・食器・容器はどうするか。

・雑居まつり式(食器持参の呼びかけ、食器(各団体用意、事務局保有)の使用、食器を水場で洗う)は、できないと考えています。

←今の社会状況では、衛生管理された施設での丁寧な洗浄が必要と考えます。

・では、どうやって販売するか？

①食器や容器を使わずに、紙、紙袋、串、ビニール袋などを使う。：ゴミは少ない。

プラ(ビニール袋など)はゴミの最終処分時などの問題はある。

②レンタル食器：ゴミが出ない。資源(物)を大切にできる。

・契約、手配、食器回収方法、価格負担、人手、値上げなど要検討。

・(例) NPO 法人スペースふう(山梨県)、NPO 法人遊風(鎌倉市)

：ホームページ等見てください：

皿、どんぶり、カップ、コーヒーカップ¥40(税込)、20個単位。

はし、スプーン¥11(税込)、50膳(個)単位。紛失や破損¥95.4(税抜)

残飯入用バケツ、ザル¥105(税込)、コンテナ単独¥210(税込)、送料。

③環境に配慮した使い捨て食器や容器：ゴミになるが、自然環境を大切にできる。

・環境に配慮、という意味を理解し選択するためには、知識を得る必要がある。

・(例)適切な森林管理から得られた木材を原料とした紙製。

竹やパカス(サトウキビのしぼりかす)素材。

(例)丸プレート¥30(税抜)、トレー¥12(税抜)、50個単位、

はしなど¥14(税抜)、100個単位、送料。調べてみてください。

④紙製の使い捨て食器や容器：ゴミは出るが、ゴミの最終処分時などの課題が少ない。

⑤プラスチックの使い捨て容器：ゴミが出る。ゴミの最終処分時などの課題がある。

⑥ほか